

新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- **1カ月以上の長期間にわたって感染が急拡大しており、一日平均1,588名と第四波の感染規模を大きく上回っている。**
第四波の感染急拡大の大きな要因となったアルファ株よりも、**感染力が約1.5倍高いとされるデルタ株への置き換わりが約8割と急速に進み、9月上旬にはほぼ置き換わるものと予測され**（アドバイザリーボード資料）、**更なる感染拡大が継続することが懸念。**
- 8/2の緊急事態措置適用後に人流はやや減少に転じたが、第四波の緊急事態措置適用（4/25）後と比較すると、**減少幅は小さく、第四波ほどには減少していない。**
第四波は、緊急事態措置適用後、強い措置により人流抑制を図った結果、急速に感染が収束したが、**第五波は措置適用後も感染が急拡大した状態が継続。現時点、新規陽性者数の減少傾向が見られない。**
- 新規陽性者数に占める**30代以下の割合が6割強。50代以下の世代で依然、増加しており、微増にとどまっていた60代以上も増加。**
- 新規陽性者に占める感染経路不明の割合は、依然、6割以上で高止まりしており、**市中感染による感染拡大が継続する恐れ。**
- 直近1週間の人口10万人あたりの**新規陽性者数は、市内・市外ともに、8/2の緊急事態措置適用後も急増。**

(2) クラスターの発生動向・陽性者のエピソード関連

- **クラスターとしては、第三・四波と比べ、施設関連の割合が低い一方、大学・学校関連と企業事業所関連の割合が増加。**
大学・学校関連では、**部活動が4分の3を占め、うち運動部が大半。就学児～20代学生の1割強に部活動や集団活動等のエピソード有。**
- **未就学児・就学児の陽性者が急増し、児童クラスターも複数確認。陽性者のエピソードとして、旅行や出張が多く確認。**

(3) 感染・療養状況とワクチン接種状況

- 年齢別ワクチン接種率（2回接種）は、**65歳以上が8割を超過、60～64歳は5割弱、40～50代は2割弱**となっている（8/15時点）。
- **新規陽性者に占める60代以上の割合は、依然、10%を下回っているものの、感染拡大を背景に新規陽性者数は増加。**
- 統計的分析が可能な状態までデータは蓄積されていないが、現時点で、**ワクチン未接種者における新規陽性者数と比べ、ワクチン接種者に占める新規陽性者数は少なく、また、ワクチン接種者のうち、ワクチン効果が期待される2回接種後14日以降に発症した者も少ない。**
（上記14日以降の発症者も確認されていることから、ワクチン接種により感染リスクがゼロになるものではなく、引き続き感染対策が必要。）
また、上記14日以降の発症者のうち、**重症、死亡例は8月15日時点で確認されていない。**

感染状況と医療提供体制の状況について

医療提供体制の状況

- **軽症中等症病床使用率、運用率ともに7割前後とひっ迫しており、一般医療と両立可能な重症病床使用率は約5割と、状況は厳しくなっている。**
- **新規重症者の内訳として、40・50代の新規重症者数に占める割合が、第四波の約3割から第五波では5割強となり、ワクチン未接種層の重症化傾向が強く見られる。30代以下の重症例も複数見られる。**

※府においては、8月13日付で感染拡大時の対応として、中等症以上又は重症化リスクの高い患者を入院治療の対象とし、症状が安定した患者は宿泊療養へ速やかに切り替え、宿泊療養は原則40歳以上の患者を優先して入所する等の方針を示している。

今後の対応方針について

- **新規陽性者数は、第四波の規模を大きく上回り、増加が継続。緊急事態措置による人流抑制効果は第四波ほど見られず、感染力が高いとされるデルタ株への置き換わりにより、更なる感染拡大が懸念。**
- **感染者数の急速な増加により、軽症中等症病床はひっ迫しており、重症者数も増加。特に、ワクチン未接種層における40・50代の重症患者が多く見られる。**

これまでに経験のない感染拡大の局面を迎えていることにより、**医療提供体制が極めてひっ迫する恐れ。**

⇒ **緊急事態措置期間の延長により、引き続き人流を抑制させ、感染拡大を防止し、医療提供体制のひっ迫を防ぐことが必要。**

⇒ **新規陽性者数の年齢構成が若年・中年層中心となっていることから、これら世代へのワクチン接種の促進と、ワクチン接種の有無にかかわらず、感染防止対策の徹底を強く働きかけることが必要。**

⇒ **府としては、抗体カクテル療法による早期治療など重症化予防の推進、宿泊・自宅療養への支援強化を図っていく。**